

## 現状

練馬区高齢者基礎調査（H26.3、H29.3）より抜粋

### ①在宅療養の希望

脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期療養が必要になった場合、病院などへの入院・入所はしないで、自宅で生活したいかとの問いに、そう思うと回答した人の割合

在宅療養希望者数	H26	H29	H29-H26
高齢者一般	29.3%	25.3%	-4
要介護高齢者	26.9%	31.1%	4.2
これから高齢期	32.4%	30.0%	-2.4

### ②在宅療養の実現可能性

在宅療養を希望すると回答した人のうち、実現可能だと思うと回答した人の割合

在宅療養の実現可能性	H26	H29	H29-H26
高齢者一般	26.1%	30.7%	4.6
要介護高齢者	35.1%	41.4%	6.3
これから高齢期	27.4%	27.0%	-0.4

### ③在宅療養が難しいと思う理由

在宅療養を希望しないあるいは在宅療養の実現が難しいと思うと回答した人の実現が難しいと思う理由の割合

在宅療養が難しいと思う理由（複数回答）上位3つ	H26	H29	H29-H26
家族等に負担をかけるから	57.9%	57.3%	-0.6
急に病状が変わったときの対応が不安だから	42.9%	46.1%	3.2
在宅でどのような医療や介護を受けられるかわからないから	23.8%	20.0%	-3.8

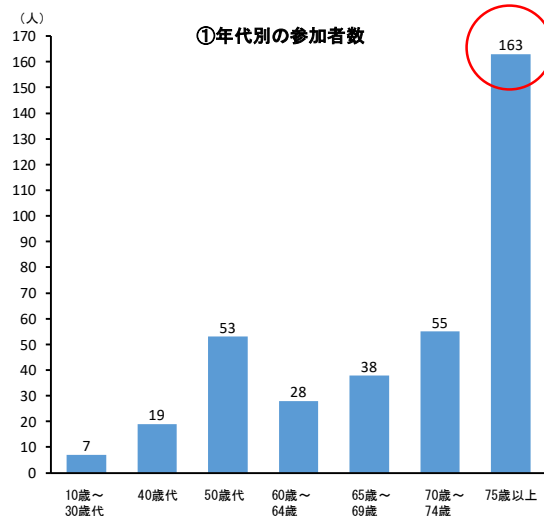
## これまでの取組（在宅療養講演会アンケート分析）

在宅療養講演会アンケート分析（参考3）より抜粋

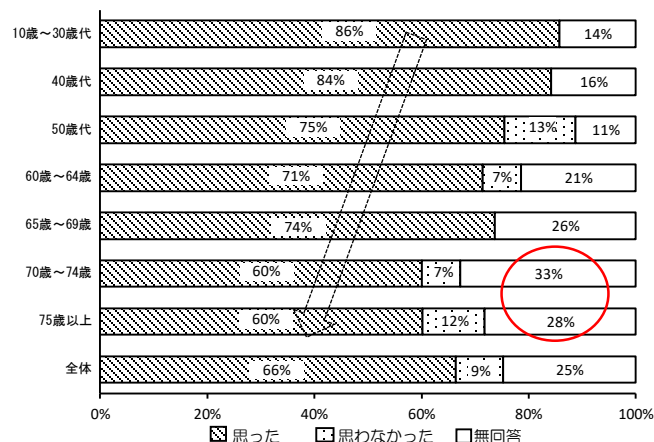
期間：H29.4.1～H30.10.18（全7回分）

アンケート回収数：463枚（うち一般区民369枚）

### ①年代別の参加者数



### ②年代別「医療や介護が必要になっても自宅で過ごしたいと思った」割合



### 【「思わなかった」と回答した方の欄外コメント（抜粋）】

・ 家族に負担をかけたくない

### 【無回答の方の欄外コメント（抜粋）】

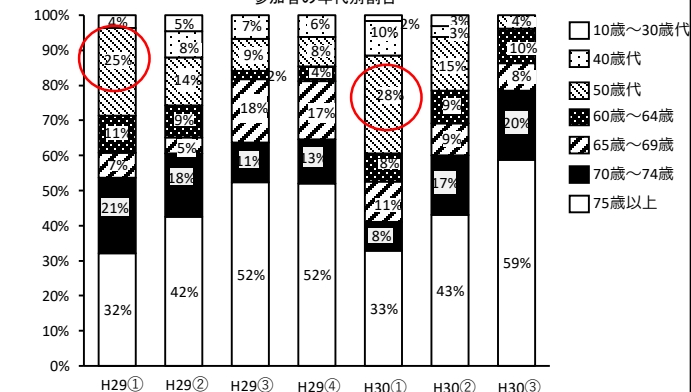
- ・ 今の私の状態では自宅は希望するが、子供たちの人生を考えたら迷い、つらい
- ・ 自分自身では自宅で最期を迎えたいと思うが、子供には病院や施設に入れてほしいと伝えると思う。
- ・ 自宅で過ごしたいと思うが、息子夫婦の考えが先になると思う。
- ・ 家族は子育てで精一杯なので、私が介護が必要になったら施設に入ろうと思っていたが、そのときにならないと分からないと思った（病状や家族の意見を聞いて判断するしかない）。

### ③講演テーマ別の参加者の状況

テーマに「家族」という言葉があるH29第1回、H30第1回は50歳代の参加割合が高い。

開催回	地区	テーマ
H29第1回	石神井	『在宅で家族をみるということ』
H29第2回	大泉	『医療と介護の賢い選択』
H29第3回	光が丘	『人生の最後までその人らしく過ごすために』
H29第4回	練馬	『自分らしく、在宅で生きる』
H30第1回	光が丘	『家族ががんになったとき～在宅での過ごし方～』
H30第2回	練馬	『在宅医療ってなんだろう～住み慣れた家での療養をかなえるために～』
H30第3回	石神井	『独り暮らしで在宅医療を選択するということ～ここまでの在宅医療の現実～』

### 参加者の年代別割合



## 新しい展開

- 平成30年7月、厚生労働省がACP（アドバンス・ケア・プランニング）の普及・啓発を目的としたリーフレット（参考4）を作成。  
⇒国、地方公共団体、民間企業が一体となって周知するよう求められる。
- 平成30年11月2日、第1回練馬区在宅療養推進協議会でACPに関する学習会を開催。  
⇒練馬区内で広く周知することが必要。

## 課題

- 在宅療養には家族の理解が必要である。
- ACPを普及していく必要がある。

## 本日の論点

- これまでの取組に加え、親の介護が問題となり始める世代をターゲットとした周知啓発を進めるべきではないか？（例）講演会の工夫（内容、時期等）
- 世代によって情報取得の方法に違いがみられる。SNS等の多様な媒体を活用した情報提供を検討すべきではないか？（参考5）
- ACPを区民・専門職に普及していくべきではないか？（協議会より追加下命）